# 第４学年　　社会科学習指導案

指導者　○○　○○

１．**対象**　第４学年○組　○名

２．**日時**　平成○年○月○日（金）第３校時（10：50～11：35）

３．**場所**　第４学年○組　教室

４．**指導内容**　学習指導要領社会第４学年の内容では、「人々の健康や生活環境を支える事業について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。」と示されており、本単元ではそのうちの廃棄物について取り上げる。

（１）身に付ける知識及び技能

①知識　廃棄物を処理する事業は，衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや，生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。

②技能　見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，まとめること。

（２）身に付ける思考力、判断力、表現力

処理の仕組みや再利用，県内外の人々の協力などに着目して，廃棄物の処理のための事業の様子を捉え，その事業が果たす役割を考え、表現すること。

５．**単元名**　住みよいくらしをささえる　②－（a）くらしとごみ

６．**単元の目標**

（知識・技能）

・ごみ処理のしくみと問題点を知り、ごみの分別収集によって、資源として再利用・再生利用することができることを理解する。また、ごみの減量のためには、市民一人一人の協力が欠かせないことを理解する。

・ごみに関する資料やグラフを読み取ること、ごみ処理場での調査結果を活用すること、市町村のホームページから情報を収集することなどを通して、ごみに対する取り組みを調べることができる。

（思考・判断・表現）

・ごみを減らすために行われている取り組みを知り、ごみの処理事業が果たす役割とともに自分たちにできることや新たな工夫や考え表現することができる。

・廃棄物処理に関する課題を把握し、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを表現したりしている。

（主体的に学習に取り組む態度）

・ごみの処理や対策について関心を持ち、自分の生活を振り返り、自らのごみに対する態度を見直そうとする。

・よりよい社会を築く、将来の担い手として、学習したことを生かして主体的に問題解決しようとする。

７．**評価規準**

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・ごみ処理のしくみと問題点を知り、<br>ごみの分別収集によって、資源として再利用・再生利用することができることを理解している。また、ごみの減量のためには、市民一人一人の協力が欠かせないことを理解している。 | ・ごみを減らすために行われている取り組みを知り、ごみの処理事業が果たす役割とともに自分たちにできることや新たな工夫や考え表現することができている。<br>・廃棄物処理に関する課題を把握し、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、 | ・ごみの処理や対策について関心を持ち、自分の生活を振り返り、自らのごみに対する態度を見直そうとする。<br>・よりよい社会を築く、将来の担い手として、学習したことを生かして主体的に問題解決しようとする。 |

| | | |
|---|---|---|
| ・ごみに関する資料やグラフを読み取ること、ごみ処理場での調査結果を活用すること、市町村のホームページから情報を収集することなどを通して、ごみに対する取り組みを調べることができている。 | 考えたことや選択・判断したことを表現したりできている。 | |

**８．単元について**

（1）教材観

大単元「住みよいくらしをささえる」は私たちの消費生活をささえる「くらしと水」「くらしとゴミ」「くらしをささえる電気」の３単元で構成されている。電気の取り扱いは大きくはないが、エネルギーを巡る問題は避けて通ることのできない問題であり、ＳＤＧｓの中にも取り上げられているので本校では多くの時間をかけて取り扱う。くらしとエネルギー、廃棄物の学習はそれだけ価値の高いものであり、教材研究と教材開発、授業研究は丁寧に行いたい。京都市や周辺自治体によるごみ削減の取り組みを学習する事に加え、ごみ処理場見学やごみ処理に従事している人々の姿を学ぶことによって児童自身の実生活との関連を実感することが期待できる。

本単元では自分たちの暮らしと密接に関係しているごみについて取り扱う。大量生産・大量消費に伴う大量のごみ問題は、現代社会における大きな課題の一つとなっている。したがって、小学校段階からごみの削減の目標の共有や、資源を大切に使おうとする態度を育成することが求められる。授業の中では日本が抱えるごみ問題に対して、知識として理解するだけではなく、国民として社会に積極的に参画していけるよう、実生活とのかかわりを重視した内容を取扱い、児童が主体的に取り組むことが出来るような活動を取り入れている。社会認識の上に社会参画の意識と行動があり、それが公民的資質の育成につながると考えている。

自分たちとの関わりを捉えるために、学校や家庭のごみを振り返り分類することによって、普段何気なく捨てていたごみについて考え直し、自己のごみに対する考え方を見つめなおす。そこから、それらのごみがどのように処理されているのかを具体的に調べ、生活環境を維持するためにごみ処理が果たす役割や意味を考えられるような指導計画を作成した。また、その過程の中で増え続けるごみ問題への対応策として、行政によってどのような取り組みが行われているのか、市民としてどのようなことが出来るのか、ごみ処理に従事している人々はどのような工夫や努力をしているのか、ということを考察していきたい。

ゴミ問題を教材化するにはいくつかのアプローチがある。一つは自治体のゴミ問題に関する施作の変化と現状を知り、そこから教材を組み立てることである。また、今回の調査のような地域に密着した調べ学習を通して教材を組み立てる方法もある。それはどちらか一方をすればよいということではない。両方に取り組んでこそ教材への理解は深まり、授業はより高度なものへとなっていく。教材に対して多角的なアプローチをすることは必要である。実際、複数の自治体のごみ問題への対応とその根拠を知ることは授業の構想を考えるうえでとても参考になった。

教材研究では「現場」や「実物」は重要なキーワードである。「自分の見てきたものを自分の言葉で語る」ことを大切にしたいと考えている。もちろん、それには限界もある。そのため、時には専門家を招いての出前授業なども実施したい。対立する意見のあるものは双方の考えを紹介することを忘れてはならない。現実に対応できない時は ICT も活用して学習を展開したい。

教材の価値を見極めるための教師の教材研究の在り方は多様であり、そうすることによって教科書や副読本、資料集、地図帳も有効に活用できると考える。教科書で教えるということを認識し、多くの事例に触れ、多様な考え方を知り価値判断と意思決定を行い、「考え議論する社会科の授業」を創造したいものである。

（2）児童観

学年当初の社会科の学習では３年生の復習を通して「社会科は何を学ぶ教科なのか。」について時間をかけて話し合った。その中で「だれもがいい暮らしのできる平和な社会を築くためのしくみを考えること」という現段階での目標を導き出した。３年生の６つの主要単元の内、２つしか思い出せない児童もみられたが３人グループでの話し合いを進める中で６つの単元全てを思い出し、振り返ることができた。最も印象に残っている学びは、体験活動を中心に据えた「昔のくらし」であった。洗濯板や七輪の体験は昔のくらしのメリットとデメリットを強く子どもの心に残した。本学年においても体験・調査などの活動と議論を中心としたアクティブラーニングを通して意欲を高めていきたいと。

社会科の九九ともいえる「都道府県」の学習においては「インスピレーションゲーム」を楽しむことで知識の定着を図った。理解していること記憶していることがゲームを有利に導きことに気付き、知識は話し合うための基礎体力であることを理解した。折に触れて最新の社会的な事象に関する問題を紹介してきた。そのため本学級の社会への関心は高いとみている。個人のレベルでみると、難しい用語を使うことで高度なレベルに達したと勘違いたり、みんなの話し合いについていけずに苦労している児童もみられる。言葉の理解と記憶についての手立てを工夫していきたい。

前単元の前には、「くらしと水」の学習を行った。「家で最も多く水が使われるのはどこだろうか？」という課題に対して、それぞれが宿題として調査を行った。「東京の水道局」のホームページに載っていたデータは参考になるのかという疑問や、水道の使用回数の調査結果によって最も多い水を使う場所を考えることは適当であるかという疑問についてクラスで考えた。「京都市の水道局」のデータが提示され比較することができ、「水道の利用回数と水の量は単純にはつながらないのではないか」という意見が出てみんなで話し合ってきた。

①スピーチ活動に見られる児童の姿

４年１組では朝の会を活用して新聞記事やニュースを活用したスピーチ活動を行っている。報告者は新聞やニュース番組から話題を提供し、話し合いたいことを示している。それを受けて司会者が話し合いを進めるというスタイルで取り組みを継続している。このスピーチ活動は、児童が興味を持った記事について紹介し、クラスで議論するテーマを児童自身で設定した上で、クラスに向けて問題提起をし、各児童はテーマに関する自分の意見を個人用ホワイトボードに書き込み交流し、色別カードで意思表示を行う流れとなっている。迷っている孤児道や少数意見を大切にし、より、説得力のある意見を探ることに力を入れている。１人の児童の意見に対して掘り下げて議論を行ったり、全体で賛否を問い、クラス集計を取ったりするなど議論の深め方は様々である。

前回のスピーチ活動では、小学生新聞の記事「大学生の塾講師：ブラックバイト問題」が取り上げられた。意思表示カードでは全員が「よくないことである」と意思表示した。それを受けて問いの出し方を考えた。「どう思いますか？」という問いに対しては「くやしい。」「ひどい。」という当事者としての回答や「気の毒だ。」という第三者的な回答が出されたが「気持ちで答える問い」であることを確認した。「どう考えますか？」という問いに対しては「解決すべき問題だと考える。」という回答が導き出された。「どうしたら解決できますか？」という問いに対しては「国がきびしくとりしまる。」「裁判所に訴える。」などの回答が出された。次のスピーチではどのような話し合いが展開されるか楽しみでもあり、注目している。

②前時までの学び

「くらしとごみ」の単元は導入部分の学習では「くしゃくしゃのティッシュはごみなのか？」「使い終わったペットボトルはごみなのか？」「雑巾はごみなのか」という疑問に対し、児童は理由を挙げながら自分の考えを発表し、議論を深めることが出来た。また、手付かず食品の画像を見て、ごみ問題を身近で切実な問題として捉え、手付かず食品を減らすために何が出来るかということを考えることが出来た。「ごみはいつからごみになるのか？」「ごみかそうでないかは人によってちがうのか？」などの疑問について一定の合意を得ることができた。

③育ってきたものと育てていきたいもの

社会認識の上に公民的資質があると考えれば、社会認識は育ち、世の中をみる目は育ちつつある。地震や火山の噴火、大きな事故や新聞上で取り上げられるセンセーショナルな事象に関する関心は高く、根拠を示して意見を述べる場面も多くみられるようになってきた。

反面、くらしと密着した日常の問題に対する関心はやや薄いと感じている。そういう点では、ごみ問題は、中々認識することが難しい問題である。ごみはごみ箱に捨てたら処理が完了すると考えている児童もかなりみられる。目の前に存在しないようにみえる問題については関心を抱きづらい。一個人の工夫と努力では解決しにくい面があるため、ごみ減量を直接、実生活と結びつけることはやや難しいとも考えられる。しかし、ごみの排出は個人によってもなされるため、１人１人がごみの減量意識を持つことは非常に重要である。したがって、社会の問題であるごみ問題を、自分と関係のある個人の問題としてとらえなおそうとする態度を育てていきたい。くらしを支えている多くの人々の存在に気付くような手立てを工夫したい。

(３)指導観

本単元では、ごみ問題を自らの生活と関連した切実な問題として捉えることが出来るように、導入部分では、身近な話題からアプローチしていきたい。関心を持つきっかけを与えることによって、児童の学習に対する意欲を高めたい。そのために本時では担任が探偵なって調査したプレゼンテーションを主たる教材として学習を進める。この調査は児童に調査の内容や方法を示す役割も兼ねている。探偵になって調査するという物語を作ることでさらに関心を高めたい。

また、アクティブラーニングの手法を取り入れ、話し合いを多く取り入れる。その際、児童が主体的に取り組むことが出来るように、積極的にホワイトボードを活用していく。意見を個人用ホワイトボードに書き込み、全員一斉に個人用ホワイトボードを上げることで意思表示を行う。また、三色カードの活用で学級の傾向と自分の位置を確認する。情報共有ボードを有効に使用し、思考の可視化を図りたい。

学習をより円滑に進め、交流を活発に行うために学習課題によっては、学習形態を全体での話し合いをしやすいコの字形から３人グループの形へと変更する。今回は生活班によるグループで行うが、課題によっては異質グループ、同質グループで取り組み、異質の導入、同質の強化等

児童の反応を情報共有ボードから読み取り、柔軟な対応を心掛けたい。迷っている児童や少数意見を取り上げ、全体の課題として考えていきたい。

学習のまとめにおいては、振り返りの視点を示し、自分の変容をしることで次の学習へとつなげたい。今回は知識理解が主たるねらいであるため、理解に着目した振り返りをおこなう。わかったこと、わからなかったこと、もっと調べてみたいこととその方法を記録していく。また、思考判断が主たるねらいの学習では、最初の考え、今の考え、私の考えに影響を与えたものに着目する。

９．指導計画（２２時間）

第１次…身のまわりのごみについて考え話し合おう…２時間

第２次…自分の町のごみに対する取り組みを調べよう…６時間

・自分の住む町のゴミ出しの実態を調べる…２時間（本時１／２）

・調査結果を交流し、ごみの分別とごみ出しのルールについて話し合う…２時間

・京都市のごみに関する取り組みを調べる…２時間

第３次…ごみのゆくえを調べよう…４時間

・家庭からでたゴミが最終処分されるまで流れを調べる

第４次…ごみ処理の現場を見学しよう…５時間

・調べるテーマを決め、ごみ処理場見学の計画を立てる…１時間

・ごみ処理場を見学する…４時間

第５次…調べたことをまとめて発表しよう…５時間

・調査結果や取材メモをもとに新聞にまとめる

・新聞の交流をする

・自分たちの生活を見直し、ごみを減らす工夫や努力点について話し合う

**10. 本時の学習**

①本時の目標

・ごみステーションが地域の人々の工夫と努力によって管理されていることを理解する。(知識・技能)

②本時の展開　　○主なる指示・発問　■評価

| 区分 | ○発問、学習活動と内容<br>（予想される児童の反応） | 指導上の留意点・支援・評価<br>（教師の活動） | 準備物<br>資料等 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>5分 | 1．前回の学習の確認を行う。<br>○前回の授業で学んだことを発表しましょう。<br>・ゴミ袋を有料化するとごみを減らせるのではないかということを話しあいました。<br>・人口が変化していないのにごみの量が増えたり減ったりしていることを知りました。 | ・ごみ袋の有料化について話し合ったことを確認する。 | |
| 展開<br>35分 | ゴミステーションの一日を追いかけてみよう<br>２．長岡京市のごみステーションの事例を調べる。<br>○ある男の追跡調査に同行してごみステーションで起こっていることを知りましょう。<br>○下のステーションで起こった事件は何だと考えますか。<br>・ノラネコが食い散らかしたのかもしれない。<br>・カラスが荒らしたのではないか。<br>・一度に大量のごみが出されたのではないか。<br>○ゴミ出しに訪れる人物に注目して、気付いたことを話し合いましょう。<br>・いろいろな人が訪れるなぁ。<br>・男の人が多いのではないだろうか。<br>・子どもはいないのかな。 | ・プレゼンテーションソフトの画像を使用し２つのごみステーションの変化を住民の姿に着目しながら学習を進める。<br>・ドラマ風の口調で興味がわくようにする。<br>・ごみステーションの管理に地域の人が関わっていることを知らせる。<br>・個人用ホワイトボードに記入して交流する。<br>・多様な人々がゴミステーションを訪れることを画像で紹介する。<br>・個人用ホワイトボードに記入して交流する。 | プレゼンテーション資料<br>個人用ホワイトボード<br>意思表示３色カード |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ３．自分とゴミ出しについて振り返る。<br>〇あなたはゴミ出しをしていますか。またそれはどうしてでしょう。<br>・意外とみんなゴミ出しをしていないな。<br>〇どのようなゴミが出されているのか調べてみましょう。<br>・多くの種類があるようだな。 | ・意思表示３色カードで交流し、学級の傾向をつかむ。<br><br>・判別できるゴミを特定する。 | 意思表示３色カード |
| | ４．パッカー車で働く人の仕事を観察し、その役割を知り、働く人の住民への提案を話し合う。<br>〇グループでパッカー車の作業員の方の提案について考えよう.<br>・ゴミを回収するだけでなくステーションをきれいにするところまでしているんだな。<br>・ネットをしっかりかぶせておきたいな。<br>・ゴミを分別しなくてはいけないな。<br>５．パッカー車が去った後のステーションの様子を確かめる。<br>〇この後のステーションがどうなるのか追跡調査に同行しましょう。<br>・片付ける人が当番になっているなど、ステーションは多くの人が関わっているんだな。 | ・机の並び方を３人グループにする。<br>・グループでの役割分担「司会」「記録」「発表」を確認する。<br>・グループ用ホワイトボードを提示して学級で交流する。<br>・地域の人が関わっていることを知らせるとともにこの地域の課題についても考える。<br><br>■ごみステーションが地域の人々の工夫と努力によって管理されていることが理解できている。 | グループ用ホワイトボード |
| まとめ５分 | ６．今日の学習を振り返る。<br>〇ノートに分かったこと、分からなかったこと、もっと調べてみたいこととその方法を記入しましょう。 | 知識・技能の学習に対応した振り返りの視点を与える。 | |

③本時の評価の観点と方法

・ごみステーションが地域の人々の工夫と努力によって管理されていることがノートに記述できているか。